

2 富良野市

1 地域の概要

指定地域	富良野市
拠点校	扇山小学校
連携校等	富良野小学校・東小学校・慈恵ひまわり幼稚園・虹いろ保育所
組織体制等	幼小接続推進協議会 (幼児教育施設関係者、小学校関係者、市教育委員会、市子ども未来課)

2 事業スタート時の現状と課題

(1) 現状

◆富良野市の小学校と幼児教育施設の設置状況

小学校 9校 市立保育所 4施設 私立幼稚園 4園

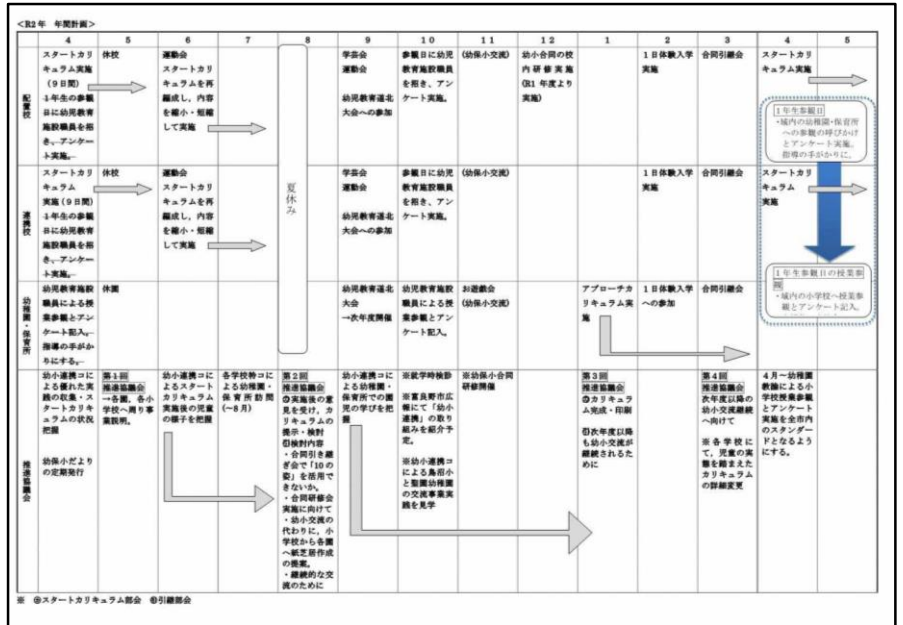
◆幼小連携・接続推進について

- ・3月末に富良野市教育委員会主催の「幼保小合同引継ぎ会」を開催し、幼児教育施設の職員と小学校教員が対面により指導要録等の引継ぎを実施。
- ・6月～8月において小学校の特別支援教育コーディネーターが幼児教育施設を訪問し、次年度就学児童の参観及び幼児教育施設の職員との懇談を実施。
- ・3月末に療育（児童発達支援）を利用している幼児については、富良野市の福祉サービスが中心となり、保護者を含めた就学に向けた会議を開催し、引継ぎを実施。
- ・小学校9校のうち2校で幼小交流事業を実施。
- ・全ての小学校で1日体験入学を実施。

(2) 課題

- ・幼小間の引継ぎは実施されているが、幼小の教員間及び幼児・児童間の交流する機会を増やす必要がある。
- ・特別な教育的支援を必要とする幼児に対する引継ぎはあるものの、その他の幼児の引継ぎは十分なものとなっておらず、引継ぎの方法等を検討する必要がある。
- ・小学校入学を迎える幼児及び保護者の不安解消に向けた取組を推進する必要がある。
- ・児童が幼児教育で培われた力を効果的に発揮できるよう、幼児教育施設と小学校の交流の機会を増やす必要がある。

3 年間スケジュール



4 事業終了後の体制づくり

- ・数年ごとに「幼小接続推進協議会」を開催し、「スタートカリキュラムハンドブック」の評価・改善を行う。
- ・各小学校において、校内委員会を設置し、毎年スタートカリキュラムの見直しを図り、評価・改善を行う。
- ・各小学校の年間指導計画に幼小交流を位置付けるとともに、校内研修で第1学年の授業公開に幼児教育施設の職員が参観できるようにする。
- ・園だより、学校だよりを通じた交流を行い、互いの保育や教育について共通理解を深める。

※扇山小学校HP：幼保小だより <http://www.city.furano.hokkaido.jp/ougiyamasho/06hoyousyo.html>

① 幼児・児童の交流～富良野市～



① 幼小交流事業

【内容】生活科の「あきの たからものらんど」に園児を招待

【交流】・児童は、秋の山で見付けた落ち葉、どんぐりや松ぼっくりを使っておもちゃを製作し、「園児を招待する」という目的に応じ、遊びやすさや伝え方、安全性を意識して活動する中で、年長者である自覚が芽生えた。

・園児は小学校での体験を振り返り、興味をもったおもちゃを幼稚園で製作するという活動を取り入れた。さらに、未就園児の体験入園の際に「お店屋さん」を実施し、小学校の学びの体験を再現するなど、学びの好循環が生まれた。



② 学習で制作した作品の交換展示

【内容】・国語科で作成した「動物クイズ」と生活科での「あさがおの観察帳」を幼児教育施設で展示したことにより、園児の就学への期待をさらに高めることができた。

・また、園児の作品も小学校に展示し、作品を通じた相互の交流を図ることができた。



③ 1日体験入学

【時期】2月ごろ

【内容】（扇山小学校の内容）

- ・第5学年と遊んでから、第1学年と合同授業を実施した。（「おもちゃづくり」「読み聞かせ」「校内探検」「レクリエーション」）など

- 幼小交流を実施している小学校は、年間計画に「幼小交流」を明記するとともに、研修計画に組み込むなど、計画的に取り組めるよう明文化している。
- 幼稚園や保育所は交流に意欲的であるため、幼小交流の機会の設定に向けて、小学校側からアプローチし、詳細に打合せを行っている。
- 児童や園児の作成物を通じた交流は、手軽に行うことができ、小学校は園児の実態把握になり、幼稚園は小学校入学への期待が高まった。
- 1日体験入学では、第5学年が園児と接することにより第6学年への進級の意識が芽生えた。また、園児は年の差のある年長者と触れ合う経験が少ないため、学校での安心感を得る機会となっている。



【成果】

- ・園児の、小学校への「期待感」「安心感」の高まりが見られた。特に、幼小交流後に学習の成果物を見ることで、より具体的に小学校での学びを知ることができた。
- ・第1学年や第5学年が次年度入学する園児と触れ合うことで、進級への意識の高まりが見られた。
- ・園児が小学校での経験を幼稚園で振り返り、実践することで自信の高まりが見られた。

【今後の見通し】

- ・幼小交流が、富良野市内の全ての学校において実践されるよう、各学校の年間指導計画に位置付ける。
- ・互いに連絡を取り合い、作品の交流ができるよう、「スタートカリキュラムハンドブック～引継編～」に幼小交流について記入し、啓発を行う。

②保育者・教職員の交流～富良野市～

① 幼保小合同研修会

【主催等】富良野市教育委員会が主催し、幼児教育施設は年長の学級担任を中心に、小学校は管理職と幼小連携を担当する教員の参加を呼びかけて開催した。

【講師】北海道幼児教育推進センター職員

【内容】幼小連携の在り方についての講演を踏まえ、後半の演習で幼児教育施設と小学校の教員が共同で生活科の単元づくりを行い、幼保小の保育、教育の違いに気付く機会となった。



② 授業参観

【参加者】幼児教育施設の年長児の学級担任

【内容】第1学年の「国語科」「算数科」「生活科」、特別支援学級の「算数科」の授業参観

【事後の聞き取り】幼児教育施設の保育者の感想に「小学校の授業を参観し、言葉のやり取りや伝え合いが多く、その重要性を再確認した。今後の保育で、意識して幼児の考えを引き出していきたい。」とあり、幼児教育施設の保育者が幼児の将来の学びを知ることによって今後の保育の見通しをもつことができた。



③ 校内研修（実技研修）

【場所】富良野市立扇山小学校

【内容】「幼稚園の先生と一緒に、入学時の学級設営を考えよう」
「体育～リズム太鼓・マット運動・跳び運動・投の運動～」

【気付き】・幼稚園2園、保育所1園から7名の参加があり、率直な意見交流がなされ、学級設営について新たな視点に気付くことができた。

・体育では「幼児期に経験しておくといふ動き」の紹介があり、幼児期に身に付けさせたい資質・能力を整理することができた。幼児教育施設の職員に好評であった。



取組のポイント

- 実技研修の日程を年間計画（冬季休業日）に位置付け、計画的に研修部と打合せを行った。
- 研修日と研修内容は、1か月前から扇山小学校の教諭が各幼児教育施設を訪問し、周知した。
- グループ交流では、幼児教育施設の職員が少なくなってしまうため、話しやすい演習の内容設定と雰囲気づくりに努めた。
- 実技研修は、体育科の免許状を有する教員が担当し、幼児期から児童期につながる実技研修となるよう配慮した。

【成果】

- ・新採用教員や低学年の担当が未経験の教員から「幼児は、自分でできることがたくさんある」ことなど新たな気付きがあった。
- ・子どもの発達に段階に応じた幼保小の円滑な接続を図るため、「学校全体で見守る体制」について理解が促された。
- ・幼児教育施設の職員から「専門的な知識を得られたことで、明日からの保育に役立つ」と感想があり、実践につながる研修にすることができた。

【今後の見通し】

- ・幼児教育施設の職員が、第1学年の授業参観をできるよう、日程調整を計画的に行う。
- ・気軽に情報共有できる関係づくりに努める。
- ・市の教育研究会に幼児教育施設の職員が会員として参加できるようにする。
- ・小学校と幼児教育施設の職員との合同研修が途絶えない体制づくりに努める。
- ・次年度は幼稚園園長を講師としたリトミック研修を実施する予定である。

③効果的な引継ぎ～富良野市～

【幼児の実態把握の様子】



【合同引継ぎ会の様子】



【合同引継ぎ会の予定】

3月26日 (木)	会議室 富良野小学校	委員会室 扇山小学校	研修室 東小学校	まいくらす 鳥沼小学校
13:30 ～13:45	ひまわり幼稚園 20名	みどり幼稚園 12名	虹いろ保育所 6名	
13:45 ～14:00		虹いろ保育所 5名	みどり幼稚園 7名	
14:00 ～14:15				
14:15 ～14:30				
14:30 ～14:45		虹いろ保育所 12名	聖園幼稚園 5名	ルンビニ幼稚園 7名
14:45 ～15:00				みどり幼稚園 2名
15:00 ～15:15	みどり幼稚園 4名	ルンビニ幼稚園	ひまわり幼稚園	聖園幼稚園 2名
15:15 ～15:30	聖園幼稚園 3名	7名	8名	
15:30 ～15:45			聖園幼稚園 2名	
15:45 ～16:00	ルンビニ幼稚園 19名	ひまわり幼稚園 16名		
16:15 ～16:30				

① 年間を通しての引継ぎ

- ・教育委員会が主導し、6月から幼保の引き継ぎを始めている。
- ・6月から9月にかけて、特別支援コーディネーターが幼保訪問を実施し、幼児の実態把握と教員同士の懇談を行っている。
- ・3月末には、合同引継ぎ会を実施し、一人一人、要録を見ながら引継ぎを行っている。

【ミニ先生の様子】



② 小学校教員による幼稚園におけるミニ先生

【内容】「小学校の先生に聞いてみよう！」（保育カリキュラム）

- ・幼稚園児の就学へ向けての期待が高まるなか、園児達の中で小学校への疑問が多くでてきた。その中で、保育者が「どうやって調べようか？」と園児に尋ねると「小学校の先生に聞いてみたらいいんじゃない」という声が上がリ、実現した。

取組の ポイント

- 「合同引継ぎ会」の実施により、幼児教育施設と小学校でそれぞれが日程調整せずに引継ぎが行える。
- 教育委員会が中心となり、各施設との連携や日程調整を行うことで、スムーズな引継ぎ体制を構築している。
- 「合同引継ぎ会」は、短時間で効率的に引継ぎが行えるよう、指導要録を事前に送付したり、引継ぎ時に幼児の写真を準備したりしている。
- 特別支援連携協議会や療育に係る担当者会議等の開催により、特別な支援を要する幼児について幼児教育施設の職員と小学校の教員が情報共有する場を確保することができる。
- 「幼稚園におけるミニ先生」は、保育者より「依頼の電話が緊張しました」という声をいただいた。気軽に往来できるよう、年間計画に位置づけることが継続に繋がると考える。

【成果】

- ・「合同引継ぎ会」を実施することにより、各施設間での日程調整等の手間が省け、引継ぎの充実を図ることができた。
- ・年間を通して、幼児の様子を把握することにより、引継ぎの充実につなげることができた。
- ・「幼稚園におけるミニ先生」では、直接、小学校の先生と話すことで疑問が解消され、安心感が生まれた。また、その後の1日入学で知っている先生がいることで最初から楽しく参加することができた。

【今後の見通し】

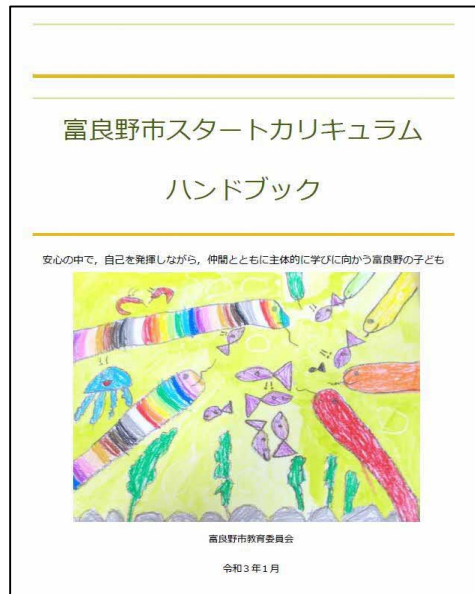
- ・「合同引継ぎ会」において、引継ぎのポイントや視点を教育委員会で明確にし、それらの観点を基にどの学校でも効果的な引継ぎが行われるようする。



④スタートカリキュラムの充実～富良野市～

【富良野市スタートカリキュラムハンドブックの内容】

1	スタートカリキュラムの目的
2	富良野市のスタートカリキュラム全体構造図
3	アプローチカリキュラムからのスタートカリキュラム
4	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を手がかりに
5	幼児教育施設の特徴から発達や学びのつながりを ・幼稚園、保育所のアプローチカリキュラム
6	生活科の単元を活用した、スタートカリキュラムの単元構成
7	生活科を中心とした弾力的な単元構成を
8	スタートカリキュラム作成の前に ・引継チェックシート
9	はじめてみよう、スタートカリキュラム！ ・入学前の準備 ・入学式から4週分の幼児教育施設の意見を踏まえた日案 ・スタートカリキュラム週案（1～4週）
10	子どもの力をさらに発揮するために（実践例をもとに） ・スタートカリキュラムだけじゃない！ 年間を通して幼保小交流を ・子どもだけじゃない！大人どうしの交流を




○富良野市内のどの小学校へ就学しても同じスタートを切ることができるよう、「富良野市スタートカリキュラムハンドブック」を作成した。

○ハンドブックは、富良野市内の幼児教育施設の特徴を記載するとともに、幼児教育施設の職員の意見を「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を手がかりに」「発達や学びのつながり」「スタートカリキュラムの日案」に取り入れた。

○ハンドブックに「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をイメージできるよう、具体的な幼児の姿の写真を掲載し一例として掲載した。

【成果】

- ・小学校独自に作成していたスタートカリキュラムに幼児教育施設の職員の視点を取り入れたことで、より子どもに寄り添ったカリキュラムを作成することができた。
- ・スタートカリキュラムを実践するための指針となるハンドブックができたことで、全ての子ども達が幼児教育施設での学びを生かしたスタートを切ることができた。

【今後の見通し】

- ・富良野市内の全小学校と幼児教育施設に「富良野市スタートカリキュラムハンドブック」のデータと冊子を配付し、数年ごとに見直し、改善を図り活用する。